

東京IPO主催 個人投資家様向けIRセミナー



2022年9月3日
ニチレキ株式会社
(証券コード5011)

「道」創りを通して社会に貢献する
「道」創りのリーディングカンパニー

「種を播け」



「種を播け」

よい種を播いて歩こう
これが我が社のモットーです
たとえ、どんな旱魃がきても
枯れないような強い種をまき
汗を流して肥料をやろう
必ず立派な実がみのる
たとえ、自分がとらなくても
私はこう思っています
種まきをしないで
肥料をやらなくて
誰も果実ばかりねらっているのは
本当の繁栄はこない
私はそう思います

池田 英一（当社創業者）

ニチレキグループ企業理念

基本理念(種播き精神)

『種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる』

たゆみない努力の積み重ねによって絶えず新しい仕事を創造していきます。

経営理念

ニチレキグループは、「道」創りを通して社会に貢献するため、

- ①優れた機能とコストを満足する道路舗装材料ならびに工法の提供
- ②国民の共有資産である「道」をいつも見守る高度なコンサルティング
- ③顧客から信頼される施工技術

これらを完全に一体化し、株主をはじめ幅広い顧客の皆様から信頼される「道」創りになくてはならない収益性に優れた企業グループであり続けるとともに、社員一人ひとりが能力を発揮でき、働きがいのあるグループであることを経営理念とします。

I . 会社概要

II . 成長戦略 - 第10次中期経営計画

(2021年度～2025年度)

III . 2023年3月期 第1四半期概要と通期業績予想

I . 会社概要

会社概要



名称	ニチレキ株式会社 NICHIREKI CO.,LTD.
本社所在地	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
創業	1943年10月（設立 1949年9月）
資本金	2,919百万円
代表者	代表取締役社長 小幡 学
従業員数	958名（連結、2022年3月31日現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・ アスファルト応用加工製品の製造・販売・ 建築・土木用資材の製造加工・販売・ 道路舗装工事・防水工事・上下水道工事、及びその他の土木工事の請負、これに関する調査・設計・監理 他

グループ沿革



1943年	池田英一がアスファルトを用いた建築防水工事を行う日本瀝青化学工業所を興す
1949年	会社設立
1950年	東京都荒川区に東京工場・研究室を建設、アスファルト乳剤の製造を開始
1954年	分割合併等により日瀝化学工業株式会社に社名変更
1961年	国産初のカチオン系アスファルト乳剤「カチオゾール」が棚橋発明賞を受賞
1968年	東京都千代田区九段に本社ビル新築(現在に至る)
1974年	東証と大証の両市場第一部銘柄として上場
1977年	栃木県の小山工場内に技術研究所を開設
1994年	ニチレキ株式会社に社名変更
2002年	中国・北京市に特殊舗装材料の製造・販売を行う日中合弁会社 北京路新大成景観舗装有限公司を設立
2007年	初のM&Aを実施、大分県大分市の朝日工業(株)を完全子会社化
2010年	中国・上海市に子会社 日瀝(上海)商貿有限公司を設立
2014年	連結子会社を完全子会社化
2017年～2019年	M&Aを実施、ラインファルト工業(株)、伸和化工(株)、ヒートロック工業(株)を完全子会社化
2020年	つくばみらい市に環境配慮型の生産・物流基地(つくばビッグシップ)を建設するための大規模な土地を取得
2022年	東京証券取引所の市場再編に伴い「プライム市場」を選択・移行

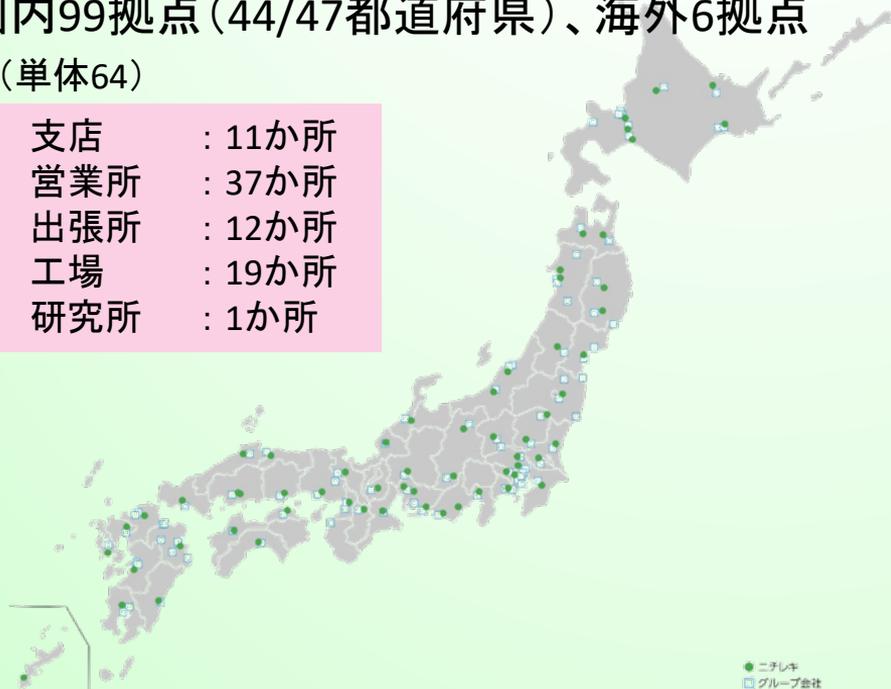
事業所・グループ会社 (2022年4月1日現在)



◆事業所

国内99拠点(44/47都道府県)、海外6拠点
(単体64)

支店	: 11か所
営業所	: 37か所
出張所	: 12か所
工場	: 19か所
研究所	: 1か所



● ニチレキ
■ グループ会社

◆グループ会社(連結子会社)

北海道ニチレキ工事株式会社
東北ニチレキ工事株式会社
日瀝道路株式会社
日レキ特殊工事株式会社
中部ニチレキ工事株式会社
近畿ニチレキ工事株式会社
中国ニチレキ工事株式会社
四国ニチレキ工事株式会社
朝日工業テクノス株式会社
九州ニチレキ工事株式会社
ラインファルト工業株式会社
ヒートロック工業株式会社

など34社

事業概要

主として道路舗装に関する製品、技術、工事等を幅広く提供する事業を展開

●アスファルト応用加工製品事業

アスファルト乳剤、改質アスファルト、橋梁床版防水材料、路面補修材、クラック補修材、景観舗装材料、工業用製品などのアスファルト応用加工製品の製造・販売、および建築・土木用資材の製造加工・販売

●道路舗装事業

道路舗装工事、橋梁床版防水工事、上下水道工事ならびにその他の土木工事の請負、およびこれらに関する調査・診断、設計、監理



アスファルト乳剤とは？

- ◆ 粘性が高い性質を利用し、アスファルトは舗装において、砂利・砂などを結合するバインダー（接着剤）としての機能を果たしている。
- ◆ アスファルトは、常温で半固体の材料であるため、一般的には加熱し液状にして使用されるが、これを常温で取り扱えるように工夫したものがアスファルト乳剤。
- ◆ アスファルト乳剤の使用により、アスファルトや舗装材料の加熱が不要となるため、舗装に際し、取り扱いの負担や環境負荷の軽減が可能。
- ◆ ニチレキはアスファルト乳剤のシェアで国内トップクラス。

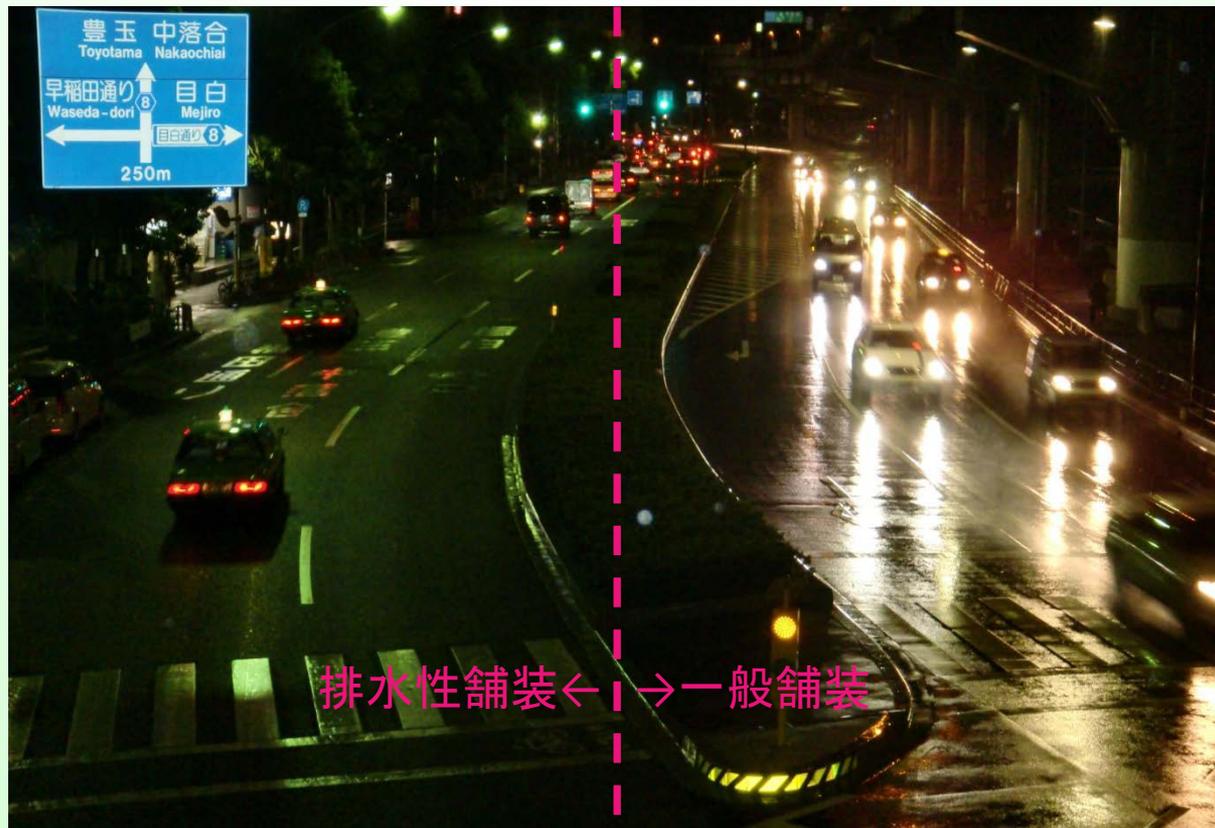
改質アスファルトとは？

- ◆ 改質アスファルトとは、アスファルトに、ゴムや樹脂等の様々な改質材を添加し、アスファルトの性能を高めたもの。
- ◆ 耐久性に優れた舗装を作ることができ、主に、気象条件の厳しい地域や交通量の多い道路、排水・低騒音などの機能が求められる舗装に使用される。
- ◆ ニチレキは改質アスファルトのシェアで国内トップクラス。

改質アスファルト～排水性舗装



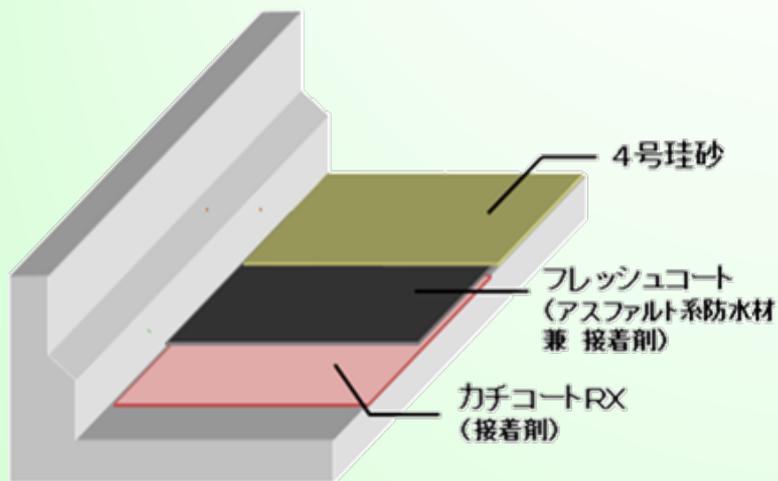
改質アスファルト～排水性舗装



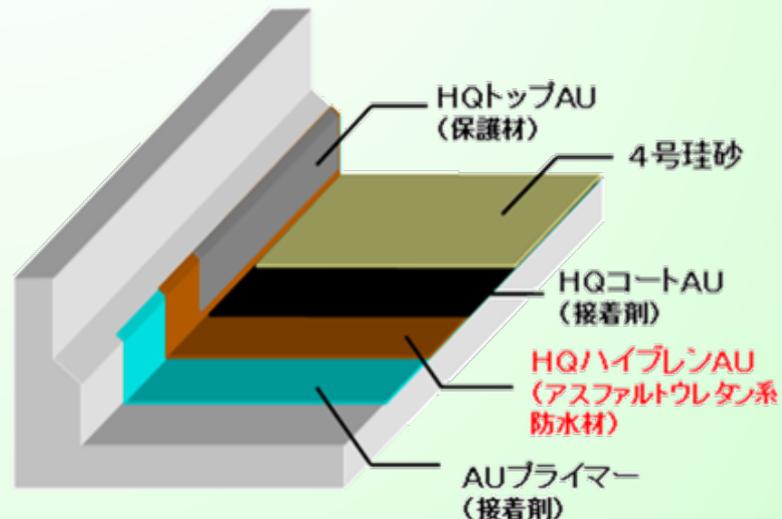
橋梁床版防水とは？

- ◆ 橋梁は代替道路が少なく、交通の要となることから、特に耐久性の高い舗装が必要となる。
- ◆ 床版とは、橋の床構造の一部で、車両や人の荷重を橋の主構造に伝えるための「床」のこと。橋梁床版防水は、床版への水や凍結防止剤の流入・浸透を防止することにより、床版の耐久性向上を図るもの。高速道路や国道、市町村道に至るまであらゆる橋に採用され、長寿命化を支える重要な機能。
- ◆ ニチレキは、アスファルトによる建築防水工事の会社として創業しており、橋梁床版防水は最も得意とする分野の一つ。

橋梁床版防水～HQハイブレンAU工法



アスファルト加熱型防水材料



アスファルトウレタン型防水材料
(30年耐用)

道路の調査とは？

- ◆ 道路舗装や橋梁といった社会インフラは、近年老朽化が進んでおり、適切な維持管理が必要となっている。
- ◆ 舗装の長寿命化に向けた効率的な修繕のためには、予め舗装路面のひび割れ、穴、段差、区画線のかすれ等の点検を行い、道路の破損状態を調査する必要がある。
- ◆ この点検・調査が、舗装のメンテナンスに必要な「道路の調査」。
- ◆ ニチレキは、長年培ってきた舗装管理および舗装補修技術を活かし、道路の調査の分野においてもリーディング・カンパニーとなっている。

GLOCAL-EYEZ

CO₂排出量削減をサポートする点検システム

- ◆ 東京大学・長山教授、株式会社スマートシティ技術研究所と共同開発
- ◆ スマートフォンによるAI解析を特徴とした道路点検DXシステム

①専用アプリを起動



②スマートフォンを設置



③走行 (点検)



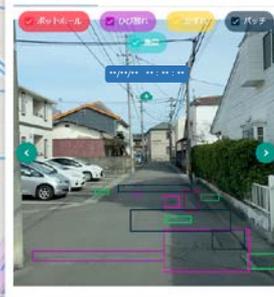
⑤インターネットで点検結果確認



④動画→画像抽出



画像データアップロード
AI解析



道路の調査～ GLOCAL-EYEZ

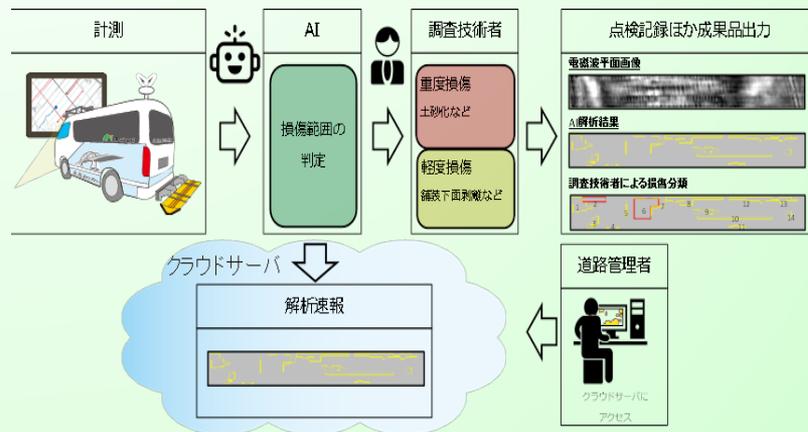
GLOCAL-EYEZ		国土交通省 資料3
技術名	GLOCAL-EYEZ（グローバルアイズ）【ニチレキ株式会社】	
ニーズ概要	道路の日常管理の効率化・高度化	
技術概要	<ul style="list-style-type: none"> GLOCAL-EYEZ（グローバルアイズ）は、パトロール車や一般車に取り付けたスマートフォンで舗装路面を撮影するだけで、自動で舗装路面のひび割れやポットホール、段差、路面標示のかすれなどの損傷状態を把握することができるDX技術 スマートフォンで取得したデータを順次クラウドサーバに自動で送信し、AI解析により、約1時間でインターネット上で解析結果を表示するため、パトロールや点検の効率化が図れる。 路線の基本情報を付加することで、点検記録簿式に出力が可能 	<p>技術概要イメージ図</p>
試行状況	<p>道路パトロール車に設置したスマートフォンから舗装路面を撮影し、GLOCAL-EYEZを用いて、路面損傷・変状を検知する精度と、検知から確認できるまでの時間を調査するとともに、実際の巡視員による操作性、使用感等を確認した。</p> <p>・現場試行調査：2022年1月27日（9時～16時） ・調査路線：一般国道1号、2号、163号 ・調査延長：約67 km</p>	
	<p>現場試行調査時の計測結果</p>	

(参考) 近畿地方整備局HP「現場ニーズと技術シーズのマッチング」
<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/i-construction/matching.html>

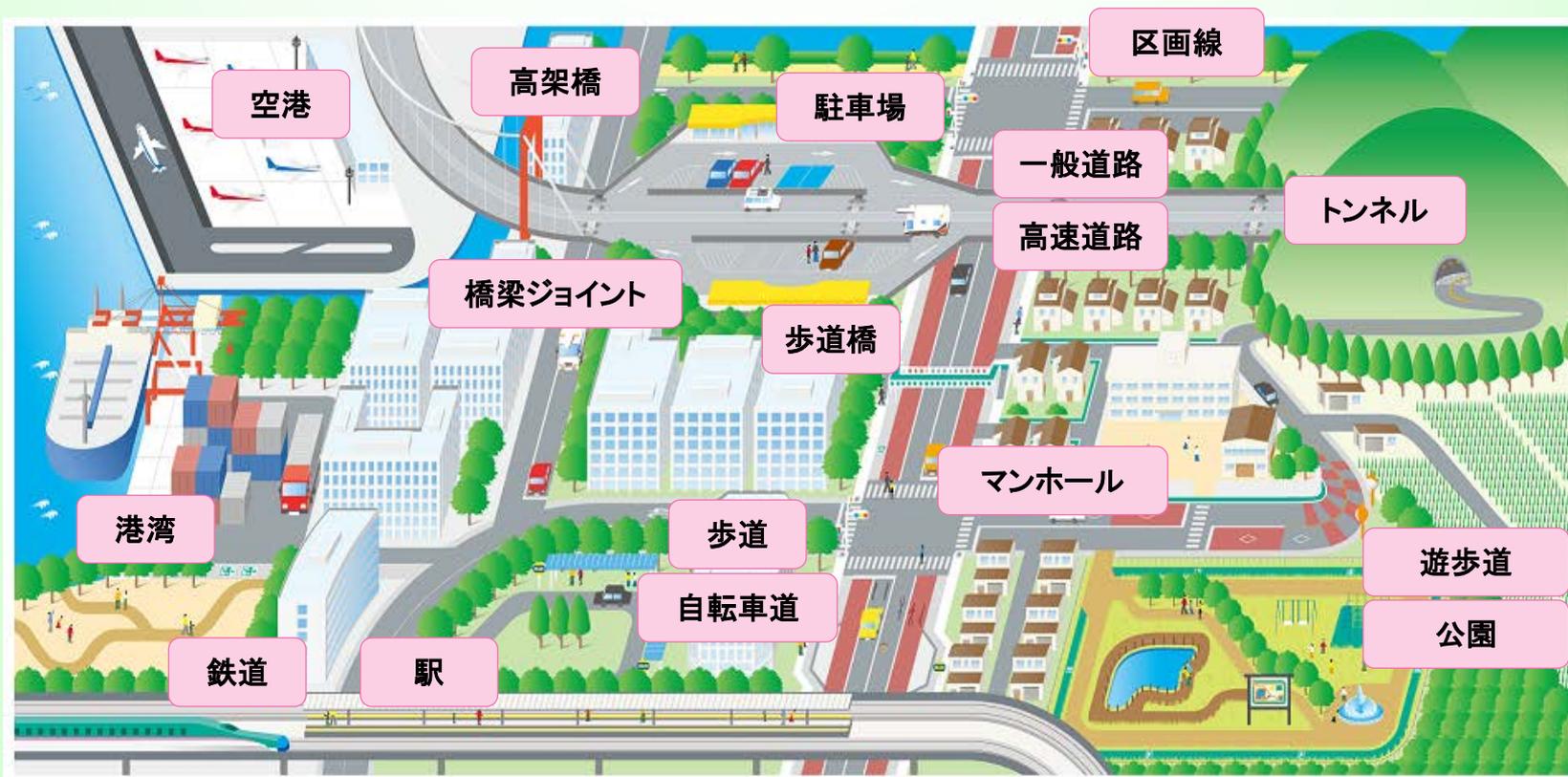
道路の調査～smart床版キャッチャー



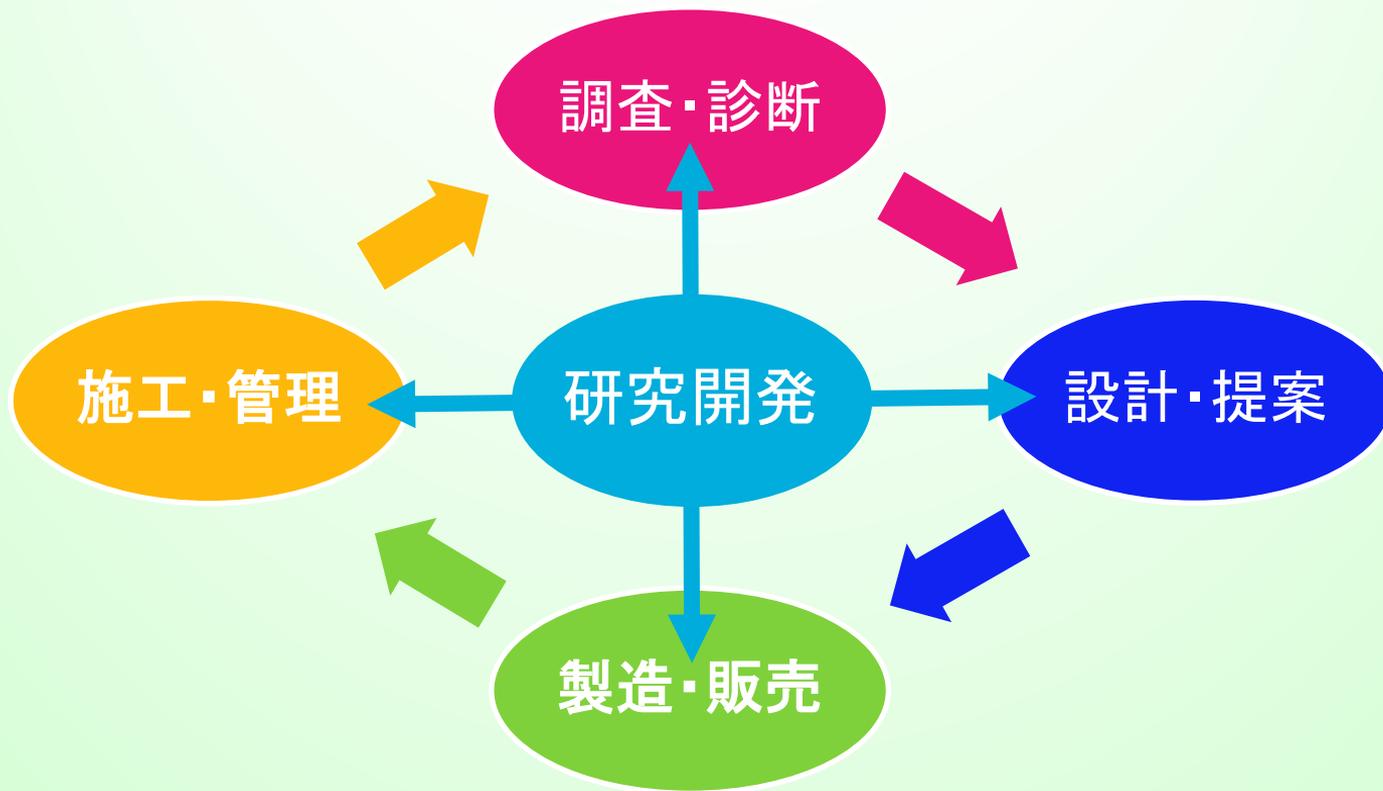
- ◆ 電磁波とAIを組み合わせた技術により、橋梁を破壊せず鉄筋コンクリート床版上面の損傷箇所を判定
- ◆ データがクラウドに即時アップロードされるため、迅速に判定結果を確認可能
- ◆ 高精度位置情報の採用で作業工数を削減。熟練技術者に頼らずコストダウンを実現



事業領域



ビジネスモデルにおける強み



研究開発の強み

- ◆ ニチレキ社員の約1割(約40名)が所属し、営業利益(連結)の約1割を研究開発に投入
- ◆ 舗装における性能評価試験機類を配備、道路の長寿命化、大規模更新などの社会インフラのメンテナンス時代に対応した環境配慮型の製品・工法の研究開発を推進



ニチレキの「足すテナビリティ」

ニチレキグループは環境に配慮した製品・工法で、
ステークホルダーの皆様のCO₂排出量削減ニーズにお応えします。

アスファルト乳剤

改質アスファルト



橋梁床版防水

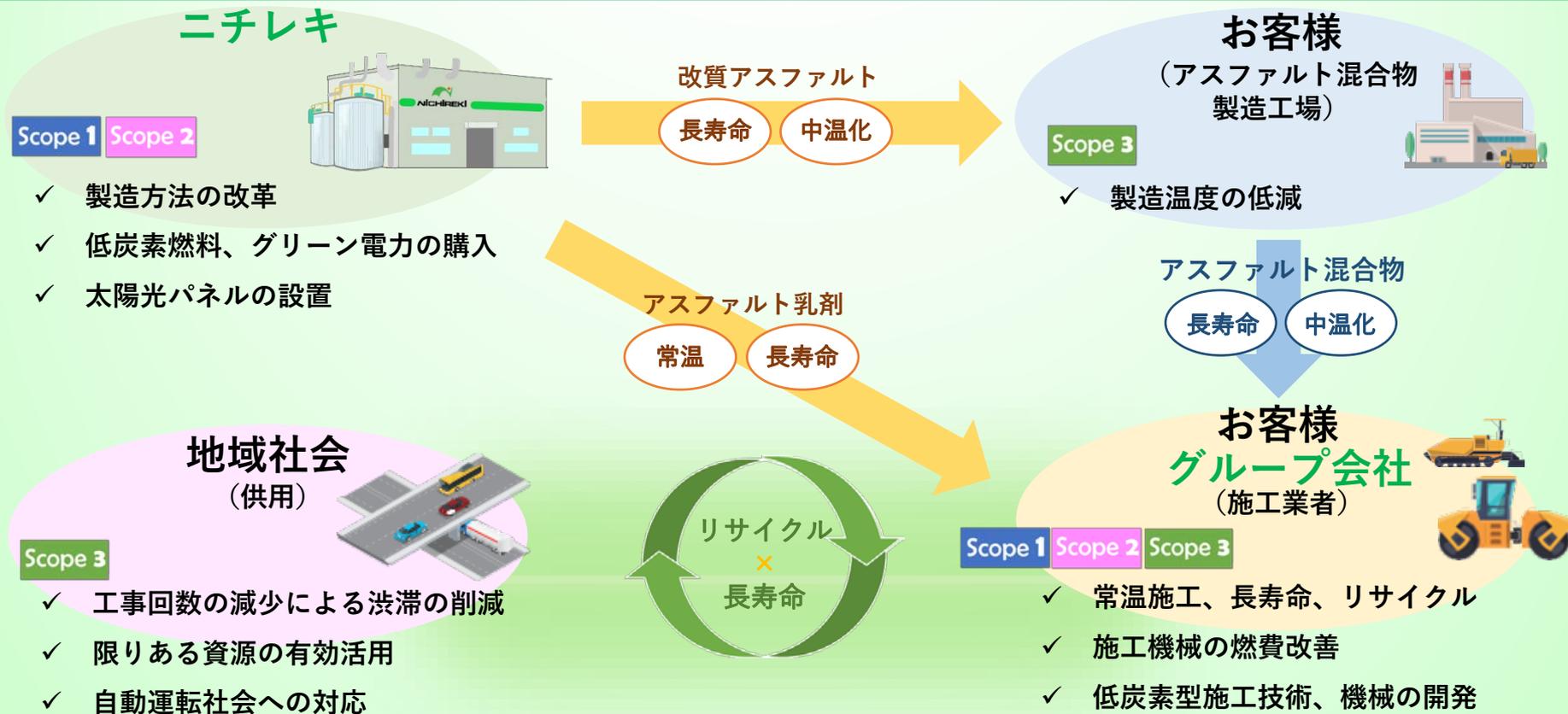
景観舗装

etc...



長寿命、リサイクルなどのさらなる性能・機能を「プラス」する
すなわち『**足す**テナビリティ』により、持続可能な道づくりに貢献します。

ニチレキ製品・工法のCO₂削減イメージ例



スーパーシナヤカファルト

アスファルト混合物製造時のCO₂排出量

約**22%**減

- ◆ 手で曲げられるほどの柔軟性と、交通荷重に耐える強靱性を兼備した特殊改質アスファルト
- ◆ 従来のニチレキ製品であるシナヤカファルトに比べ、混合物の製造温度を180℃から130℃に、50℃低減



足すエコビリティ

+ 舗装の長寿命化に寄与し、工事回数が約2分の1に削減できることから工事作業および交通渋滞等によるCO₂発生量の削減にも貢献

スタビセメントRC工法

既設舗装の再生利用により、CO₂排出量

約**20%**減

- ◆ 破損が進行した既設舗装を現位置で再利用し、新たな舗装を構築することにより、現場から排出する舗装廃材を約8割削減



足 可 可 ビ リ テ ー



工事期間の短縮やそれに伴う交通渋滞の軽減等により、さらなるCO₂発生量の削減にも貢献

※「打換え工法」と比較
(一般的な地方レベル、設計CBR=4、大型交通量N5)

スーパーシナヤカファルト＋スタビセメントRC工法

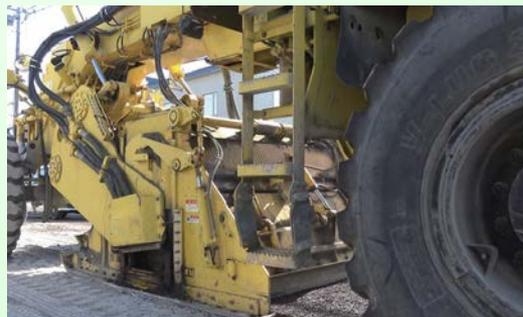
長寿命＋リサイクルにより、CO₂排出量

約**48%**減

- ◆ スタビセメントRC工法で構築した基盤の上に、スーパーシナヤカファルトを舗装することにより、これまでにない舗装の長寿命化を実現
- ◆ これにより、50年間の舗装のライフサイクルにおいて、CO₂発生量を約48%削減



足 石 石 石 石 石



Ⅱ．成長戦略-第10次中期経営計画 (2021年～2025年度)

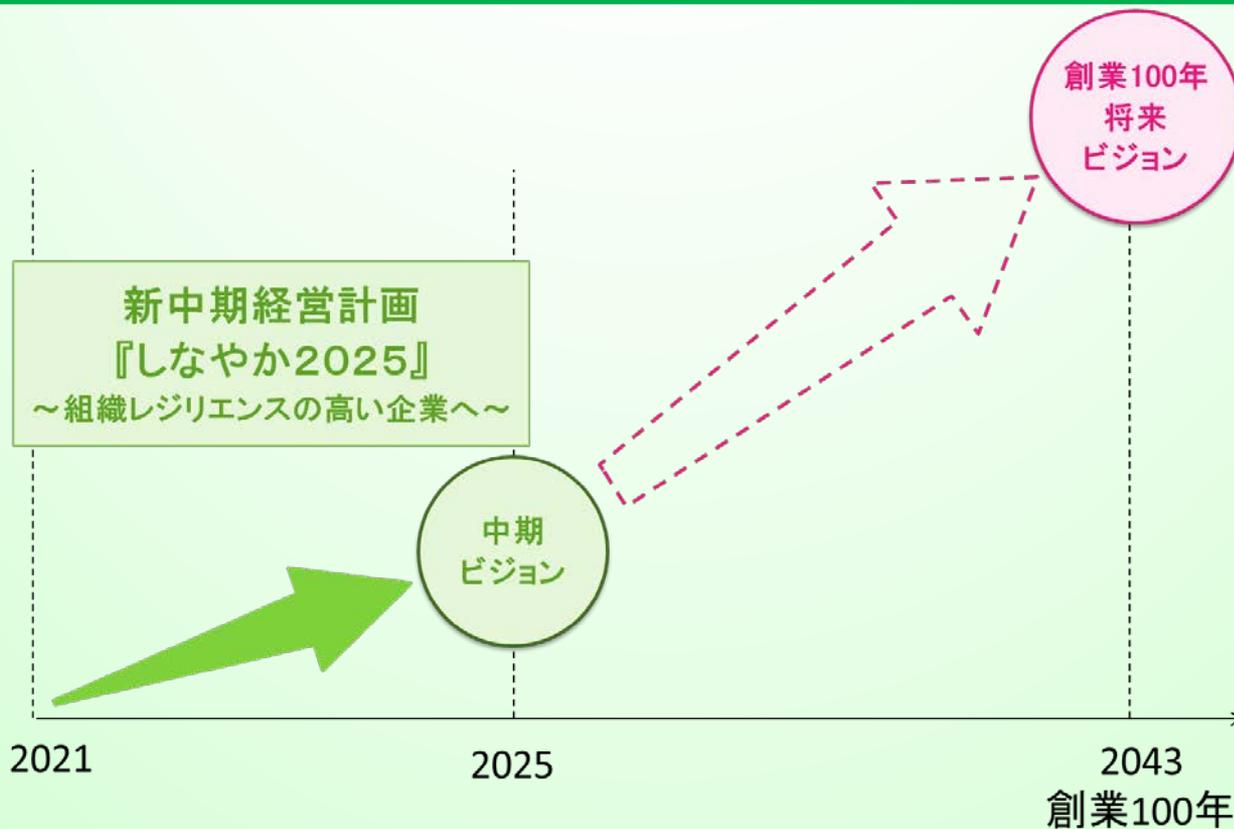
第10次中期経営計画(2021年度～2025年度)

しなやか2025

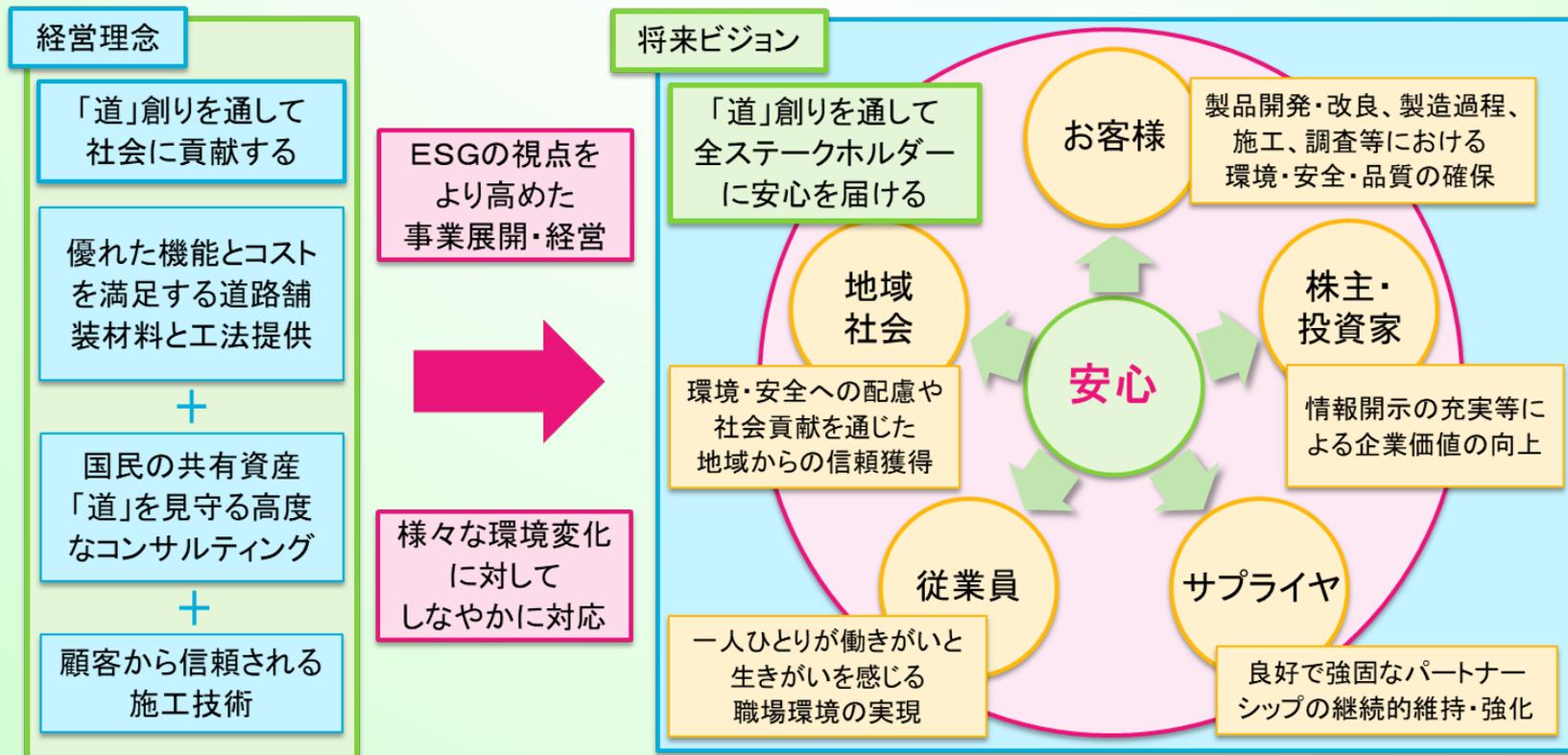
～組織レジリエンスの高い企業へ～

大規模かつ速い速度で進行していくことが想定される様々な環境変化に対して、迅速かつ的確な意思決定のもと、組織が一丸となってしなやかな対応を図り、持続可能な企業グループへと成長する。

本計画の位置付け



創業100年(2043年)将来ビジョン



ESGに関する主な取り組み

E 環境製品・工法の充実



S 災害時における復旧支援等、地域・地元貢献



G ガバナンス強化(2022年4月、プライム市場へ)



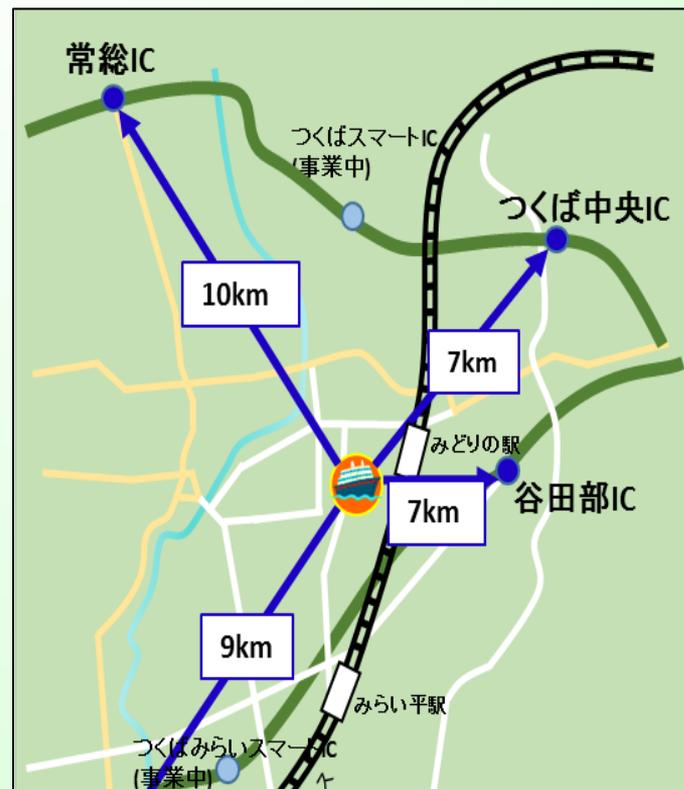
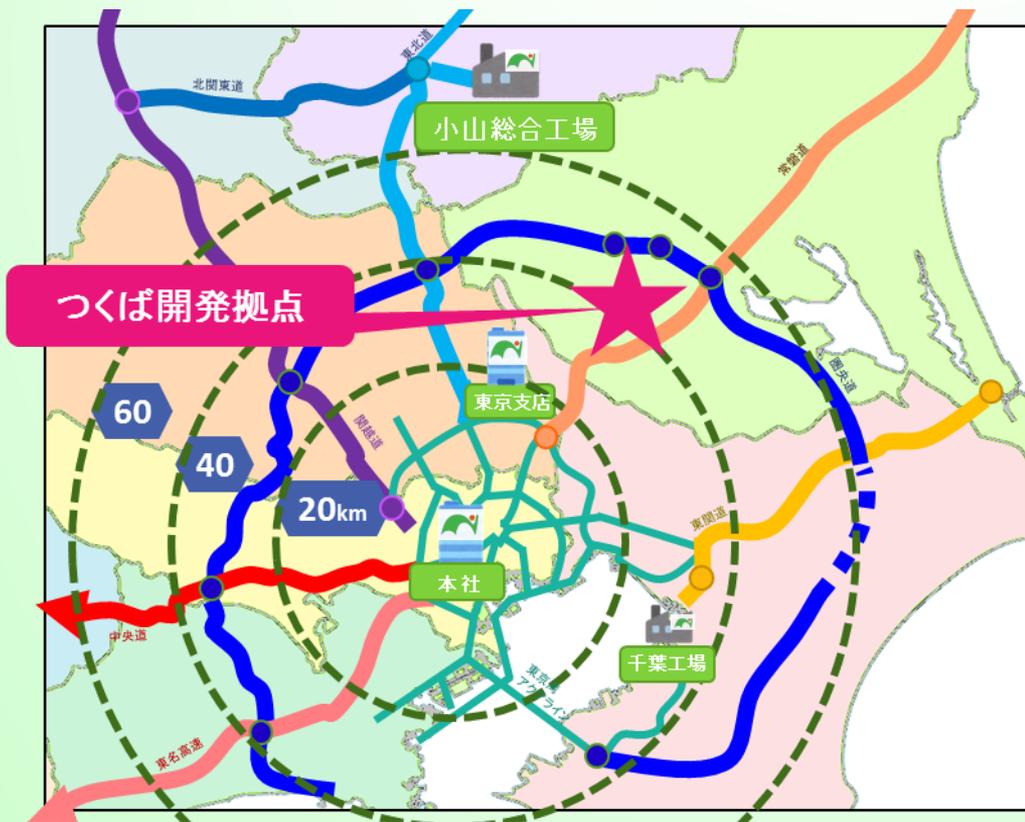
「つくばビッグシップ」プロジェクト

脱炭素社会実現へのESG(環境)投資促進

- ◆ 茨城県つくばみらい市に建設する環境配慮型の生産物流基地(つくば開発拠点)における、脱炭素社会移行への取り組み
- ◆ 開発拠点総面積: 104,700m²



つくば開発拠点へのアクセス



Ⅲ. 2023年3月期

第1四半期概要と通期業績予想

当四半期の事業環境

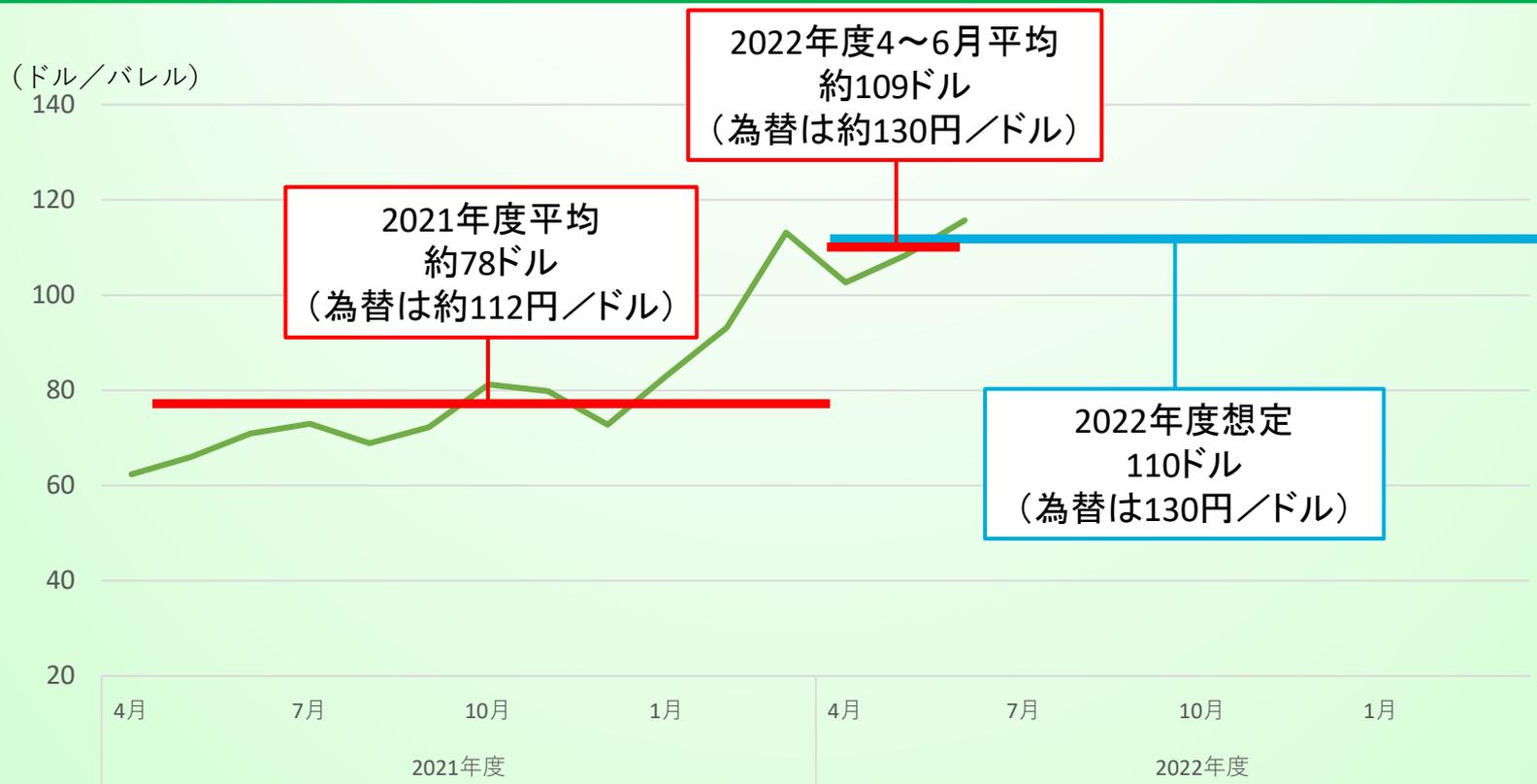
日本経済の概況

- ◆ 新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和され、経済活動の正常化に向けた動きが見られた
- ◆ 一方で、ウクライナ情勢の混迷継続や中国のゼロコロナ政策による経済活動の抑制等に伴う物価の上昇、資材等の供給制約に加え、欧米での金融引き締めの影響等もあり、景気は力強さに欠ける状況が継続

当社グループを取り巻く事業環境

- ◆ 防災・減災、国土強靱化対策など建設需要の高まり等、公共投資は底堅く推移
- ◆ 原油価格高騰や円安進行等の業績下押し要因に注視が必要

参考:ドバイ原油価格の想定



第1四半期決算概要(連結)



(単位:百万円)

	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期 1Q実績	対前期 増減	対前期 増減率
売上高	14,133	14,773	640	4.5%
売上総利益	3,034	3,150	115	3.8%
販売費及び一般管理費	2,363	2,506	143	6.1%
営業利益	671	643	▲ 27	▲ 4.0%
経常利益	762	997	234	30.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	384	1,685	1,301	338.8%

通期業績予想(連結)

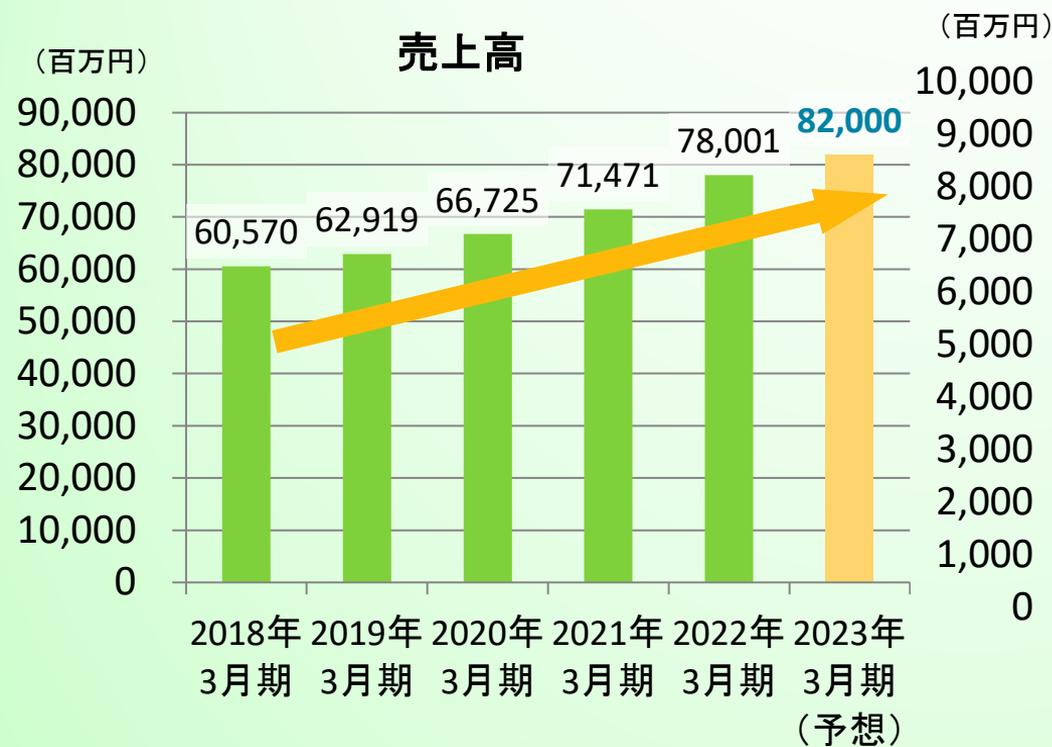


(単位:百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想(5/10発表)	2023年3月期 予想(7/28修正)	対前期 増減率
売上高	78,001	82,000	82,000	5.1%
営業利益	8,566	9,000	9,000	5.1%
経常利益	9,311	9,300	9,300	▲0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,811	6,000	(※) 7,200	5.7%

※退職給付制度の一部移行に伴う特別利益の計上により上方修正

通期業績予想(推移)



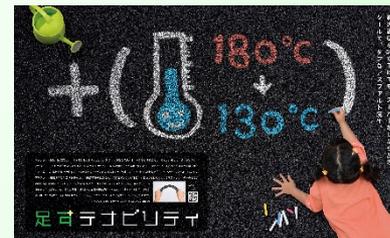
株主還元

◆安定配当を基本とし、業績向上による増配に向けて努力を継続



トピックス

- ◆ 4月26日
ラジオNIKKEI番組「この企業に注目！相場の福の神」出演
- ◆ 7月26日、8月1日
「日本経済新聞 朝刊」広告掲載
- ◆ 7月1日
プロバスケットボールチーム「宇都宮ブレックス」との
オフィシャルスポンサー契約締結
- ◆ 8月17日
「会社四季報オンライン」社長インタビュー掲載



◆ ご注意事項

本資料に含まれる業績予想等の将来予測に関する記述は、資料作成時点における入手可能情報および、当社の判断・仮定に基づくものです。今後の経済状況および事業環境の変化等により、実際の業績は現時点の予測から乖離する可能性があります。

◆ お問い合わせ先

ニチレキ株式会社 広報室 IR担当

TEL: 03-3265-1513 (8:30～17:30、土日・祝日を除く)

HP : <https://www.nichireki.co.jp/inquiry/>